

糖尿病治療の最前線

糖尿病の高齢者は 体の異変に気づきにくい

痛みに気づくのが遅れ、腸管炎症を起こしたWさんのケース



担当医 久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医
医療法人社団湖聖会 銀座医院
院長補佐・抗加齢センター長

患者氏名	W・K様	年齢	70歳	性別	男性	現病歴	糖尿病 軽度の網膜症(経過観察)
------	------	----	-----	----	----	-----	------------------

70歳になられるWさんは、ヘモグロビンA1cが7.5%前後で1種類の経口薬を服用しておられます。そのWさんが、定期検診の際に、お腹の調子が悪いとおっしゃるのです。糖尿病の方は、便通障害を起こしやすい傾向にあるため、お薬を処方し様子を見ていただくことにしました。

ところがその後、腹痛がするようになり、近所の病院で腹部のCT検査を受けられたそうです。結果は、とくに異常なし。しかしその3日後、やはりまだ腹痛が良くならないと私のところへ来られたのです。採血して調べたところ、炎症反応を示す白血球数とCRP値が、非常に高い値でした。さらに、エコー(超音波)検査で腹部を見てみると、やはり腸管に炎症があります。炎症は進んでおり、外科的な適応を含め対処しないといけない状態でした。

糖尿病があると、他の疾患の症状

がマスクされ(隠され)やすい傾向にあります。Wさんのように高齢ですと、なおさらです。Wさんの疾患の発見が遅れたのも、そのためではないかと思われまます。本来なら、もっと早く痛みを感じていたことでしょう。また今回のように、CT検査で異常が見られなくても、エコー検査で判明するケースもあるので私たち医師も注意が必要です。

糖尿病によって見逃されやすい疾患には、狭心症や心筋梗塞がよく知られています。神経障害による足のしびれや起立性低血圧、低血糖も感じにくい症状のひとつです。気づかず放置しておく、深刻な事態に発展することも多々あります。糖尿病の方、血糖値が高めの方は、定期的な検査を受けるのはもちろん、少しでも体に異常を感じたら、速やかに医療機関を受診し、医師に詳しく症状を説明するようにしてください。